

相互提案型協働事業実施報告書

令和7年3月24日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市小松原2-44-1-808

名 称 アートステージ

代表者名 代表 小山 透



市 担当課名 教育部 生涯学習課

所 属 長 新井 昭



次のとおり報告します。

1 事 業 名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
2 事 業 形 態	☒ 市民活動団体提案協働事業 ☐ 市提案協働事業
3 選 考 年 度	令和5年度選考 (令和6年度実施)
4 報 告 期 間	令和6年4月1日 から 令和7年2月28日 まで
5 事 業 費	454,080円 (うち座間市支出分 450,000円)
6 事 業 概 要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	心身にハンデのある人、登校に悩みを抱えている人、引きこもりの人などを対象に、アート創作を通して個性を発揮し、多くの人と交流できる機会の提供として、出前アート体験講座とざまユニバーサルアート展を実施した。 出前アート体験講座は、市内福祉事業所や小学校特別支援学級等に加え、新たに夏休み期間に児童福祉施設を対象に実施し、目標通りの参加者増を達成した。また、先方の希望に沿った学習の場を提供するため、講座の開催方法や内容等にも工夫を凝らした。 初の市役所展望回廊での開催となったざまユニバーサルアート展は、会場の利便性と雰囲気の良さもあり、来場者の大幅な増加を達成することができた。また、市民が参加して楽しめる市民投票とアートワークショップを実施した。その後、選抜作品による巡回展を市内のコミュニティセンターと企業のショーウィンドウでも実施した。さらに来場できなかった人に向け、作品紹介動画と展示会紹介動画を市及び団体のホームページに掲載し、本事業の啓蒙に努めた。
7 添 付 資 料	☒ 収支決算書 ☒ 事業詳細報告書 ☒ 事業記録写真 ☒ チラシなどの広報資料 ☒ 作成した冊子などの資料 ☐ その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
-----	---------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。 出前アート体験講座、ざまユニバーサルアート展、作品紹介や展示会紹介動画などの施策を全て遂行し、参加者拡大の目標も十分に達成することができた。	支援が必要な方にアート体験やアート展を通じて個性を発揮し、自信をもって社会参加できる機会を提供するという目的は達成した。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。 ・出前アート体験講座は協働事業としては13回実施（その他自主事業として2回実施）。継続的に参加される学校や事業所に加え、夏休み期間に初めて児童福祉施設で実施したことで、児童の参加も増え、参加者が目標の110%を達成した。その他に他団体の要請に応え新たな未就学児向けのワークショップも行い、高評価を得たことで、新講座開設につながった。 ・アート展の応募点数は62点と昨年より下回ったが、応募参加者は昨年並みの200名を超えた。本事業が3年目を迎え認知度が進み、参加意欲の向上につながったと思われる。また、アート展来場者も、本展で600名を超え前年度158%の大幅な増を達成した。座間市全自治会掲示板の告知、障害者月間の開催時期、市役所内での開催に加え、市民投票や体験ワークショップなどの企画も功を奏したと思われる。来場者の97%の人が「良かった・とても良かった」と回答されていて、本事業を通して支援が必要な人への理解向上が図られたと思われる。	出前アート体験講座・ワークショップは、163人の参加があり、アート体験を通じて、笑顔や学びの場が育まれたことを大いに感じる。 また、アート展では208人の参加申し込みがあり、多くの方に発表の機会を提供することができた。そして、603人の来場があり、多くの方々に作品を鑑賞してもらうことができ、成果を感じることができた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。 本事業は3年目を迎え、児童の参加拡大やアート展の開催場所の選定など新たな課題がある中で、双方共通の認識を持って、事業の目的・目標の実現に向けて取り組むことができた。	対面での打ち合わせや電話やメール等での調整を頻繁に行った。時には、見解の相違があり、実施に向けて調整に膨大な時間を要することがあった。
事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。 ・出前アート体験講座は、スケジュール順守を基本に、関係者と調整を図りながら予定通りに遂行できた。 ・アート展は会場の見直しに時間を要したが、要望や進捗状況を頻繁に連絡し合い、開催内容とスケジュールを臨機応変に見直し、事業を進めることができた。	互いの進捗状況の報告をメールや電話で頻繁に行い、必要に応じて、対面での打ち合わせを行った。突発的な課題が生じたこともあったが、スケジュール等を調整し、課題を解決しながら事業を進めることができた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。 今回はアート展の開催場所の設定が大きな課題だったが、それぞれの立場でできる可能性を考え、お互いの案を尊重しながら課題を克服し、事業を実施することができた。	事業を遂行する上で、団体から様々な要望を受けることがあったが、対等な立場であることを意識しながら、互いに妥協することなく協議し、解決策を見出す努力をした。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。 3年目は市の組織変更に伴い管理責任者が変わり危惧したが、一緒に構築してきた経験が生かされ、より意見を尊重し迅速に判断していただいたことで、お互いの立場を理解しながら目標遂行に専念できた。	団体が通常行っていることでも、市の事業という観点から、団体の希望通りに行えない部分が生じ、事務や手続きに時間がかかってしまうこともあった。しかし、団体に繰り返し説明をし、理解してもらうことにより、最終的には事業を実施できた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
役割分担の内容	(団体の役割) ○本事業の企画立案 ・企画書の作成と市との調整 ・全体日程、予算の作成と管理 ○出前アート体験講座の推進 ・講師調整、チラシ作成及び配布 ・福祉事業所、小中学校、支援学校等へ出向き内容説明と日程調整 ・メンバー全員で講座サポート実施 ・報告書の作成 ・HPへの掲載 ○ざまユニバーサルアート展の推進 ・開催場所の選考→本展を市役所7階展望回廊、巡回展を栗原コミュニティセンターと城南信用金庫へ決定し開催日程を作成 ・応募期間、作品搬入、展示期間、表彰式、作品返却等の日程案を作成 ・審査員の選定、日程調整 ・応募要項、申込書の作成 ・募集チラシ、ポスターの作成と福祉事業所、支援学校等への配布 ・応募者リストの作成 ・イオンデジタルサイネージ用のアート展の募集と開催データの作成 ・アート展開催ポスターの作成 ・座間市内全自治会掲示板へアート展開催ポスターを地区別に仕分け→市に自治総連へ配付依頼 ・副賞品、表彰状の手配 ・応募作品に応じた展示レイアウトを作成し、必要な備品（額、吊り下げワイヤー等）を調達 ・作品搬入の受け入れ ・審査会の実施、入賞作品を決定 ・活動内容、タイトル、作品のキャプション、賞札、審査委員コメント等のパネル作成 ・作品の保管（福祉事業所へ） ・展示の設営と当番の決定 ・市民投票/アンケートの準備・実施 ・アート体験ワークショップ（オリジナル缶バッジ作成）の準備・実施 ・表彰式の式次第、レイアウト案、作品紹介のプレゼン資料の作成	(市の役割) 本事業に係る申込受付 ○アート展出品申込の受付 本事業に係る会場・備品の手配 ○ざまユニバーサルアート展 ・市役所7階 展望回廊 ・市役所5階 5-1会議室 ・市役所5階 5-2会議室 ・栗原コミュニティセンター2階通路 ・栗原コミュニティセンター2階和室 本事業に係る広報及びチラシ配布等の協力 ○市内公共施設、市内小中学校支援教室等へのチラシ配布 ○市が管理する手段を活用して広報＜手段＞ ①広報ざま、②市ホームページ、③市LINE公式アカウント、④庁内放送、⑤市公式Youtube ⑥プレスリリース ＜内容ごとに活用した手段＞ アート展作品募集①②③⑥ アート展①②③④⑤⑥ 巡回展②③ ○イオンデジタルサイネージを活用し、アート展の作品募集、開催を周知 ○校長会にて本事業の周知 本事業に係る会場運営及び当日運営補助 ○会場準備及び片付け ○開催会場への同行と補助 その他 ○要項、チラシ・ポスター等の確認

	・表彰式の実施（設営、司会進行、表彰状の授与等） ・巡回展（栗原コミュニティセンター、城南信用金庫ショーウィンドウ）の交渉、レイアウト検討、設営、当番を実施 ・本展、巡回展の作品返却対応 ・アート展に來れなかった人のための作品紹介とアート展示会場の紹介動画を作成し、市の公式チャンネル掲載への依頼をすると共にアートステージHPに掲載	
--	---	--

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	お互いの役割を踏まえ、遂行のためにそれぞれがすべきことを日程に落とし込み、実施することができたので適正だったと思う。	団体のみでは難しい事柄を、主に市が担うことができたことから、役割分担は適正なものであった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	○出前アート体験講座 ・児童の参加を促すために初めて児童福祉施設へアプローチしたが、4施設が参加していただき、アート展への出品にもつながることができた。 ・小学校2校から3学期での要望があり、年明けに自主講座として実施したが、そのうちの一つは、第1回ユニバーサルアート展で市長賞を受賞した方が、今度は自ら講師として実施することができた。 ○ごまユニバーサルアート展 ・応募した児童の作品にアメリカのゲームキャラクターがあって、先方へアート展の展示許可をお願いしたところ、快く承諾してもらい、児童へプレゼントを送ってもらうなどの嬉しい出来事が生まれた。 ・今回展望回廊という事で広報強化の一つとして全自治会の掲示板へのポスター掲載を行ったが、アンケート結果によるとアート展を知った理由として①知人②ポスター③広報とい	市LINE公式アカウントや広報誌まで、本事業を知ったという人もいたことから、市が市民への周知を担うという役割は、ある程度、果たすことができたと感じている。

	う順番で、ポスター掲載は功を奏した。 ・市民参加型の一つとして市民投票を初めて実施。多くの方が作品に感動されたコメントをしており、十分な作品鑑賞のきっかけになる事ができ、支援が必要な人への理解向上に寄与することができた。 ・第1回市長賞を受賞された方の新しい作品を招待作家として入口に展示。来場者がその作品に目を惹かれ大変好評で、作品鑑賞のきっかけになったと共に、アート展の姿勢をアピールすることができた。	
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。 3年目で、当初から希望していた障がい者月間に合わせたアート展を初めて実施することができた。 ハーモニーホール座間が使えないという事が、逆に展望回廊でやるという新しい発想を生み出し、企画内容を見直し事業を推進したが、それができたのも、私たちの意図を理解していただき、場所の早期確保、マスコミ含めた広報の拡大対応、市役所の休日対応など、市のきめ細かな協力なしでは達成できなかった。 結果的に単独では成し得ない多くの応募参加と大幅な来場者の増加を達成することができた。 団体では不可能と思われる規模での周知を当課が行い、団体が今までに実施してきた経験を踏まえて事業を進めることができたことから、単独で実施する以上の成果を上げることができたと考える。	

4 今後の具体的な展開

	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
事業の波及効果	(団体の考え) 本事業を通して、多くの福祉施設や支援級・支援学校との絆が生まれ、年々参加者も増え、個性の創出と社会参加への需要の高さを改めて感じた。 そして波及効果の一つとして、ハンデのある方が協力を申し出るようになり、自分の得意なアートで他団体のワークショップの参加や出前アート体験	(市の考え) 本事業の認知度、信頼度の確立が図ることができ、団体での活動の幅が拡大されたと考える。今までの活動でのつながりや成果を基に、団体の力を発揮していただきたい。

	講座の講師までやっていただくようになった。これは本事業が目指すアートを通して自信を持って社会参加するという目標を具現化した大きな成果だった。今後もハンデのある方の協力を受け入れ、一緒に活動することで社会参加できる事業へ展開していきたい。 アート展においては、今回福祉イベントとの連携効果を実感した。又企業の協力による巡回展も定着しつつある。これらの効果を踏まえ、障がい福祉という切り口で、様々な市の福祉イベントや福祉に理解ある企業をもっと増やした街ぐるみのアート展事業へ展開していくことが望ましいと考える。そのためにも、市の協力は不可欠であり、可能な部署と連携を取りながら、実施できるように努めたい。	
--	--	--